

ことば わざわざ乗りに来ていただける 鉄道を目指して

四国旅客鉄道株式会社 代表取締役社長

半井 真司



今年の4月に国鉄改革30周年を迎えました。四国を経営基盤とするJR四

国は、会社発足以降、高速道路網の整備に伴うマイカー化や高速バスの伸展などにより厳しい経営状況が続いてい

ます。今後を見通しても、全国に先駆ける人口減少や少子・高齢化の下で、

四国内の鉄道利用客の減少が想定されます。こうした中、四国外から鉄道利

用のお客様をお呼びすること、つまり交流人口の拡大が重要な経営課題と

なっていることから、乗ること自体が旅行目的になる魅力的な観光列車の開

発に取り組んでいます。当社では、従来からアンパンマン列車やトロッコ列

車を運行していますが、ここでは、近年運転を開始した、ゆったりと車窓の

風景と食事をお楽しみいただける観光

列車「伊予灘ものがたり」と「四国まんなか千年ものがたり」をご紹介します。

1 「伊予灘ものがたり」について

平成26年7月に、当社初の本格的観光列車「伊予灘ものがたり」の運行を開始しました。列車は2両編成、定員は48名で、運行区間は道後温泉でおなじみの松山駅～伊予大洲駅、八幡浜駅間で土日祝日を中心に1日1往復ずつ運行しています。レトロモダンな車両は当社社員がデザインしており、地元愛媛県の食材にこだわった食事、地域の方々のおもてなしや専属スタッフの手作り感のあるサービスが人気の観光列車です。平成28年12月には運行開始5万人目のお客様さまをお迎えすること

ができ、これまでの乗車率は90%を超え、全国各地からご乗車いただける人気の観光列車となりました。

運行にあたり、大切にしたのは「地元産品へのこだわり」です。そこでしか味わえない、魅力ある地元産品を活用し列車のお客様の満足度を高めるとともに、観光列車を通じて、それらの良さを全国に情報発信できればと考えております。伊予灘ものがたりで使用している陶器は、愛媛県が誇る伝統工芸品砥部焼です。器は列車のターゲット層にあわせ、女性作家グループ「とべりて」の皆さんがひとつひとつオリジナルの作品を作ってくれています。コーヒーマグは常時20種類以上あり、お客様はそれぞれ違った柄の砥部焼を見比べながら、伝統工芸品の良さを手に

とって実感することができません。その他にも箸置きには四国中央市の水引細工、お箸は久万高原町の杉、スタッフが身につけるアクセサリーは宇和島市の名産真珠を使用するなど、地元の魅力ある産品を積極的に活用しております。

また、この観光列車の魅力は地元の方々のおもてなしです。伊予大洲駅では、甲冑姿の地元の方がお迎えをしてくれますし、車窓から見える大洲城では、天守閣の傍らから観光客が列車に向かって幟旗を振ってくれます。伊予灘ものがたりの乗客の中には、次回はお城で幟旗を振ってみたいと大洲城を訪れる方がいますし、大洲城での幟旗を行程に組み込んだツアーもあり、大洲城の入館



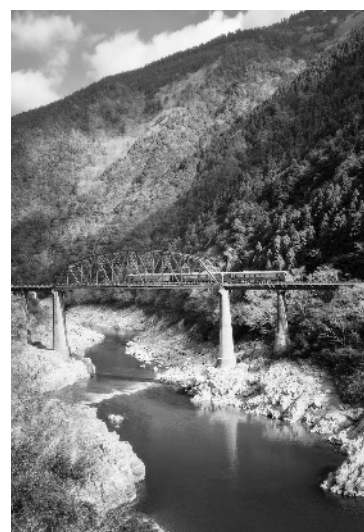
者は平成27年度30%以上増加しました。

更に、途中駅では、趣向を凝らしたお出迎えや地元産品の販売などを行ってくれます。その他、下校中の小学生や少年野球チームなどが列車に向けて手を振ってくれます。県外から来たお客様には地元の方の熱いおもてなしに感動していただいております。こうした地元の方々のおもてなしは、四国遍路のお接待文化の表れであり、他の地域にない特色だと思えます。

2 「四国まんなか千年ものがたり」について

今年4月1日から、「四国まんなか千年ものがたり」が運行を開始しました。この列車は3両編成、定員は54名で、運行区間は土讃線多度津・琴平駅〜大歩危駅です。沿線には弘法大師空海の生誕地である善通寺や海の神様で「こんぴらさん」の愛称で親しまれる金刀比羅宮、平家の落人伝説、日本の原風景が残る徳島県祖谷地区など1000年を超える歴史や文化が残る四国のまんなかを走る列車です。

この列車は「おとなの遊山」をコンセプトとしており、日常から離れた気晴らし旅行をお楽しみいただけます。そして、地元食材をふんだんに使った



料理を提供するとともに、人間国宝監修の香川漆器の酒器や徳島県の大谷焼など魅力ある地元産品を積極的に活用しています。また、この列車についても、沿線の方々が様々なおもてなしをしてくださっています。応援していただいている皆様のためにも、地域の素晴らしい観光素材を、観光列車に乗せて全国へ情報発信し、今後も地域観光の活性化に微力ながら貢献してまいりたいと考えております。

このような「わざわざ乗りに来ていただける」列車を活用した観光旅客需要の創出を、今後も持続的に取り組み、将来は素敵な観光列車を乗り継いで四国を1周し、四国の素晴らしい景色、食、伝統工芸、そしてお接待文化を満喫していただくとのが私の夢です。機会がございましたら、是非四国にお越しいただき、その良さを堪能ください。